

中世のヨーロッパで発生したペストのパンデミックは四年の流行期間で人口の四割を死亡させたといわれ、現在のように医学も発達していない時代に人々が対応できたことは、G・ボッカチオの『デカメロン』の成立過程が象徴するように、都会から田舎に逃避することしかなかった。しかし、この人口減少と都会逃避は社会を激変させた。

人口不足のため雇用する立場より労働する立場が優位になって社会の経済構造が変化し、人々が有利な条件の雇用に移動するため物々交換ではなく貨幣経済が発達した。人々を救済できなかったキリスト教会の権威は失墜し、世俗中心のルネサンスが到来した。やや出遅れたがJ・グーテンベルグの印刷技術も変化を加速させた。

今回のパンデミックでは中世より進歩した医学の効果で感染者数や死者は抑制されているが、中世に類した現象が登場している。第一は人口の減少である。日本では二〇一八年五月の妊娠届出人数は八万五〇〇〇人であったが、昨年五月は六万七〇〇〇人に減少、アメリカの人口増加比率も過去一二〇年間で最低になっている。

さらに世界全体の人口が減少するという衝撃の推計もある。過去二〇〇〇年間で地球の人口は二五倍の八〇億人に増加し、国連は今世紀末に一一〇億人になると予測していた。ところが今年七月にワシントン大学が二〇六四年に九七億人で頂点に到達し、以後は減少して今世紀末には八八億人になるという試算を発表した。

人口分布にも変化が発生している。終戦直後には日本全体の七％であった東京の人口は七〇年後には一％にまで増加したが、今年初頭から転出超過となり、東京周辺の三県に人口が移動している。アメリカでもサンフランシスコやニューヨークなど人口が集中していた大都市圏からフロリダやアリゾナなどへの移動が顕著である。

コロナウイルスへの感染対策としては接触を回避することが重要であるため、接触しないビジネスが躍進している。一例としてアマゾン今年の第一四半期で前年同期より売上が四四％増加し、楽天も同様に一七％の増加である。それら既存のビジネス以外に、無人店舗は当然として、無人ジム、無人ヘアサロンまで登場してきた。

さらに従来は衰退の象徴であった無人が人気の対象にもなっている。全国の鉄道駅舎の半分は無人になっているが、ゆったりと絶景が眺望できる、邪魔されずに撮影できるなどの理由で急速に注目され、鉄道会社から賃借して宿泊施設や飲食施設が設営され、一気に人気の場所になる逆転現象も出現してきた。

このような逆転を加速するのが情報通信技術である。コロナウイルスの流行以前の東京の全従業者あたりテレワーカー比率は一五％前後で推移していたが、昨年は一気に二三％に急増した。そのような状況を反映して東京だけではなく札幌、大阪、福岡などの都心のオフィスの空室比率は急増し、賃料が値下がりしている。

ここ数年の接触を回避する文化が浸透する社会がコロナウイルス終息以後、どのように変化するかは重要な課題である。人間は集団で相互に接触することによって人間以外の生物とは相違する文化を構築してきた。八〇億人という集団の行方を人為で左右することは出来ないが、パンデミックと情報通信技術がもたらす社会を予測しておくことは重要である。